

創立150周年を迎える 市立札幌病院の歩みを見てみよう

■市立札幌病院

救命救急センター、精神医療センターなどを備える病院。診療科は33科、病床数は672床、医師や看護師ら1,000人を超える職員が従事している。

所在地中央区北11西13



札幌の歴史 あれこれ

今や106万人以上が暮らす街へと発展した札幌。ここでは、これまでの札幌の歩みを、さまざまな角度から見ていきます。

問い合わせ 広報課 ☎(21)2036

【地域の医療の向上に取り組んできた市立札幌病院】

No.05

1869 小樽の仮病院を札幌に移転

明治2(1869)年、開拓使の命を受けた医師の平帰一、^{ひらきいち さいとうりゅうあん}斎藤龍安らが現小樽市銭函の民家に、市立札幌病院の始まりとなる仮病院を開設。その後、現在の東区北13東16付近に移転し、札幌で最初の病院となった。明治24(1891)年には、当時まん延したコレラや天然痘などの感染症の治療や流行の予防にも対応できる、近代的な病院を中央区北1西8付近に新たに建築し、移転した。



北海道大学附属図書館所蔵

◆ドイツ人医師のフェルジナンド・グリンム院長が設計した中央区の新病院

1920~1923

大火による病院焼失と市立札幌病院の誕生

大正9(1920)年3月、病室に備え付けられた浴室から出火し、病院の3分の2が焼失。火事の翌日から診療、翌々日から手術を再開したものの、医療の提供は困難を極めた。この火事を機に病院を全面改築し、大正12(1923)年には新病院が完成。その最中の大正11(1922)年8月1日、市制の施行により、市立札幌病院に名称が変更された。

▶大正11(1922)年に行われた新病院の本館上棟式



出典：市立札幌病院百年史

1971から 専門科の新設を進める

昭和後期には、より高度な医療を行うため、複数の診療科を新設。昭和46(1971)年に未熟児専門の外來を開設したほか、昭和54(1979)年に後の腎臓内科となる腎センターを新設した。



▲昭和54(1979)年には現在の新生児内科の前身となる未熟児センターを設立

1995 現在地に病院が完成

建物の老朽化に加え、患者数の増加などにより広い施設が必要となったことから、平成7(1995)年、新病院を桑園に建設。ヘリポートを設置したほか、最先端の医療機器も導入された。



▲平成26(2014)年には、高度な内視鏡手術が可能な手術支援ロボットを導入